

広報伊達 143

発行日 令和4年12月21日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 遠藤和宏

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》

一周まわって、さあ、ここから！



伊達地区小学校長会副会長

佐藤政俊

(国見町立国見小学校長)

私は教諭、教頭、校長として小・中学校どちらにも勤務させていただきました。これまでを振り返り、今後の展望について述べたいと思います。

諸先輩方に育てていただいた教諭時代

初任校の小戸神小学校は児童数50名前後の学校。心構えや指導案の書き方等を丁寧にご指導いただき、教員としての土台となっています。初任校での指導がいかに大事か実感しています。

2校めの川俣中学校は全校生徒850名以上の大規模校。教科部会で授業について語り合う時間がとても有意義でした。わかる・できる授業こそが生徒指導上も大切であると学びました。3校めの梁川中学校は1,000名以上の更なる大規模校。人格を育む部活動の意義や、将来の夢を叶える進路指導の大切さも強く認識しました。またチームで指導していくことの大切さも体験しました。

職員室の担任としての教頭時代

初めは伊南中学校に。小規模校で初任校に戻った感じでしたが、立場は教頭。とにかく先生方との会話を増やし、よさを生かすようにしました。

2校めは震災後に五十沢小学校へ。あんば柿が原発事故で作れず地域もがっかりしていました。そこであんば柿応援プロジェクトを始め、作り方を調べてまとめました。児童のアイデアからマスコットを作り着ぐるみにしました。そして多くの地域の方々と一緒に東京での「福島県フェア」で発表し、PRと販売。学校は地域の元気の源であると再確認しました。3校めの保原小学校では震災の影響もあり生徒指導で何もない日はない毎日。SCが2名おり、ケース会議を開き担任が抱え込まないように配慮しました。初期対応を迅速に組織的に行うことの重要性を肝に命じました。

学校の最高責任者の校長時代

最初の岩井沢小学校は旧都路村にありました。原発事故の影響で避難を余儀なくされ、他校との統合も決まり、閉校前の最後の1年での赴任でした。運動会や学習発表会には多くの方々にご来場いただきました。学校は地域の文化の中心であり、宝だったということを実感しました。

2校めの松陽中学校では学校目標を大切にし、日々の教育実践がそれを達成するための内容になっているか確認し、ぶれない学校経営に努めました。3校目の桃陵中学校では、保原小の時の児童が中学生になって再会。また一緒に生活できました。小学1年生だった子どもが中学卒業までどのように成長していくのか確かめることができ、義務教育を小中9年間連続して考えることができました。

我がふるさと国見町に戻って

最後に地元で勤めることができとても幸せです。国見町では、国見学園として保育所、幼稚園、小学校、中学校が一体となり、同じ目標の下、教育を行っています。地域連携の点でも進んでおり、町ぐるみで子どもたちを育てています。そして現在、5年後に新たに認定子ども園、義務教育学校を開校することを目標に、「くにみ学園構想」がスタートしました。町では、どんな学校にしたいか、どんな教育を行いたいか、そしてどんなくにみ子を育てたいか、子どもたちや先生方だけでなく、広く町民の意見を取り入れていこうとシンポジウムやワークショップを開催しているところです。私もこれまでの経験を生かし、「我が子や孫はくにみ学園に通わせたい」と思ってもらえるよう学校づくりに携わっていきたくと考えています。

《 特 別 寄 稿 》

県小教研体育科研究部会伊達大会を終えて

伊達地区小教研体育部長
五十嵐 洋 之
(桑折町立半田醸芳小学校長)

10月14日(金)伊達福祉センターにおいて、各地区研究部長・代表者及び伊達地区体育部会員、地区小教研事務局、計65名の参加のもと、県小教研体育科研究部会伊達大会を開催しました。依然として、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中でしたが、小教研伊達地区会長様、地区小教研事務局長様、県体育科研究部長様等より開催の方法や内容について適宜ご指導をいただき、また、関係する多くの皆様のご協力により、無事に開催することができました。また、第Ⅷ期第一年次のスタートにふさわしく多くの成果と今後の研究の方向性を見いだすことができました。

大会では、研究主題である「体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成」のもと、これまでの各地区の取り組みにおける成果と課題や今後の研究計画、また、「ICTの効果的な活用」等について協議しました。どの地区においても「運動をする・みる・支える・知る」の視点を大切にしながら授業実践を重ね、運動やスポーツの多様な関わり方を深く追究している取り組みは大変参考になるものでした。質疑応答も活発に行われ、参加者の意欲的な姿勢や研究協議の深まりに大会開催の意義を改めて実感することができました。

グループ協議では、体育科におけるICTの活用について、使用アプリの紹介や具体的な活用方法、また、体育科の見方・考え方を高めるための活用における留意点等について話し合いました。協議のまとめの発表では、主体的で協働的な学習を生み出すためにICT機器は有効であること、また、思考や動きを可視化することで、自己の技能習得状況を客観的に把握し、新たな課題を設定

する上でもとても効果があることが報告されました。反面、運動量の確保が難しいことやアプリの制限等により、活用方法が限定されてしまうなどの課題も挙げられました。今後の実践において課題を解決するための取り組みをさらに充実させていきたいと考えております。

全体指導では、福島県教育庁健康教育課指導主事安田篤史様より、系統性を踏まえた指導の在り方や各校の体育授業充実のため、体育部会員が中心となって効果的な指導方法を周知していく必要性などについてご指導いただきました。また、東京学芸大学教育学部准教授鈴木直樹先生による講演では、ICT機器の効果的な活用とVR等を活用した「これからの体育授業の構想」について、豊富なデジタル資料をもとにご講演いただきました。ICT機器活用の意味・目的を問い直すとともに、新たな示唆を与えていただいた大変有意義な講演でした。

大会全体を通して、新たな知識や技術を学び取ろうとする真剣な姿、参加者同士が熱く議論する姿が数多く見られ、大会の成功を感じるとともに、このような研修の場と機会を提供することが、小教研の大きな役割であることを改めて実感することができました。このような成果をあげることができたのも、伊達市、桑折町、国見町各教育委員会様はじめ、地区小教研事務局様、そして、多方面に渡りご指導いただいた伊達地区の校長先生方のおかげです。改めて、大会開催にご尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。二年次に向けても、ご指導のほどよろしく願いいたします。



各地区代表による研究協議



鈴木直樹先生による講演

《 先 輩 よ り 》

放課後児童保育に携わって

前伊達市立伊達東小学校長 緑 上 隆

伊達地区校長会の先生方には、大変お世話になりました。

私は、現在、桑折町児童館において、主に放課後児童保育の仕事に携わっております。学校を離れた子どもたちと関わっていると、新たな子どもたちの姿が見えてきます。その度に、子どもにレッテルを貼ることなく、まず受け入れ、そして寄り添うことが大事なのではないかと、あらためて思います。また、「緩さ」のある環境も大切にしていきたいと考えています。日々子どもたちから学ぶことも多く、自分自身も日々更新するの必要に迫られる毎日です。

放課後児童保育を行う上で大変ありがたいと感じていることが、小学校との連携です。桑折町立釧芳小学校の遠藤和宏校長先生のご理解とご協力のもと、定期的に情報交換を行い、共に支援ができることは、心強い限りです。

学校に感謝

前伊達市立栗野小学校長 木 村 圭 吾

現在、伊達市生涯学習課にお世話になっています。そこでは、生涯学習のための講師派遣をする人材バンクコーディネーターをしています。また、伊達市の小学5年生が対象となる通学合宿体験活動事業にも携わっています。先日子どもたちと一緒に宿泊をしました。調理やベッドメイキングなど一生懸命に取り組む姿に子どものひたむきさを感じて、あらためて、子どもたちと関わった学校現場のすばらしさを実感しました。生涯学習に携わっていると「学ぶ」という行為は人間の本能として備わっているのではないかと思えます。90歳を越してもなお郷土史研究に取り組む方や地域に元気を届けようとマジックを学び披露している方もおられます。その土台になっているのが学校教育です。離れてみて学校の大切さを感じています。最後になりますが、人材バンクは学校で利用することも可能です。外部講師等の依頼でお困りの時は、相談にのりますのでご連絡下さい。今後ともよろしく願いいたします。

お世話になりました

前伊達市立堰本小学校長 高 見 良 典

早いもので、教員でない自分になってから、あっという間に8か月が経ってしまいました。在職中は、大変お世話になりました。

今は、伊達市の生涯学習指導員という仕事をいただき、梁川各地区の高齢者・女性学級を担当しています。関わる対象が子どもからご高齢の方々に変わり、最初は戸惑いでしたが、学習会に集まってくる皆様に「来てよかった。」「楽しかった。」と思っただけのように学級を運営したり、交流館のサポートをしたり、学級生と一緒に活動して盛り上げたりしています。そのような中で、地区民にとって「そこ（地区）で生きる」とはどういうことか・・・、皆さんの一生懸命に生きている姿や思いや願い、地区の現実などにふれ、新たな視点で社会を見つめる機会にもなっています。

新型コロナの第8波云々が聞こえてくる中、校長先生方は、日々神経をすり減らしていることと思います。どうかご自愛され、ますます活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

学びのお手伝いをしています

前伊達市立大田小学校長 佐々木 誠 一 郎

今年3月に伊達市立大田小学校を退職しました。在職中は、コロナ禍の只中にありましたが、伊達地区校長会の皆様にご助言、ご支援をいただきお陰様で職務を全うすることができました。改めて感謝申し上げます。

現在は、伊達市教育委員会生涯学習課に所属し、月館総合支所に勤務しています。「月館成人講座」を受け持ち、18名の受講生と認知症予防やパークゴルフ、美術作品鑑賞等の学習会に取り組んでいます。学習内容は多様ですが、受講生の意欲は高く、毎回積極的に参加されています。和気藹々と楽しそうに取り組む、築かれていく人間関係を目にすると、生涯学習指導員のやりがいを感じます。学ぶ意欲を持ち続けるようにすること、子どもから大人へと働きかける対象は変わりましたが、これからも生涯学習の場と機会を提供し続けていきたいと思えます。

感染第8波の入口と報道されています。校長先生方もご自身の健康に留意され、ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

学 び 直 し

前伊達市立保原小学校長 堀 部 誠

本年度4月より、初任者研修コーディネーターとして勤務しております。各校の校長先生、教頭先生、研修リーダー、校内指導教員等の先生方と連携し、校内における研修を行っています。研修領域が幅広いので、福島県教育センターの研修資料を中心に、学習指導要領解説や文部科学省、県教委等のさまざまな手引きやハンドブック、ガイドライン、インターネット情報を日々熟読し、教師としての基礎・基本を退職してから正に学び直しているところです。恥ずかしながら、新たに気

付くことが少なくありません。

先を見通すことが大変難しい時代を迎え、解のない時代とも言われます。これからの将来をたくましく生き抜く力を児童生徒に育むために、初任者の先生方が、自らの長所や個性の伸長を図り、自信を持って指導できるよう、微力ではありますが、尽力して参りたいと思っております。校長先生方には、何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

次の世代のリーダー育成のためにできること

前桑折町立醸芳小学校長 高 野 孝 男

桑折町立醸芳小学校を昨年度末に退職して、半年が過ぎました。伊達地区小学校長会の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

しています。授業では、今後の学校に求められる「チーム学校」「主体性」等の大切さを伝えています。

現在、福島大学教職大学院で、現場から派遣された先生方や大学院生、将来教職を目指す学生に「学校マネジメント論」「教職概論」「教職入門」等の授業を担当しています。また、教職の素晴らしさややり甲斐について経験知を入れて話すように心がけ、「学校はブラック」というイメージを払拭し、教員志望の学生を増やせるように努力

また、伊達地区の次の世代を担う教頭先生方やミドルリーダーの先生方に、有益な研修会への誘いや情報提供を行い、自分から「学び続けること」の大切さを伝え、リーダーとしての土台づくりに貢献できるように裏方として取り組んでいます。

これからも、伊達地区への恩返しができるように全力で支援して参りたいと思います。

勉強はやっかいでも楽しく役に立つ

前桑折町立伊達崎小学校長 大 木 修

伊達地区小学校長会の皆様には、大変お世話になりました。

今年3月で再任用校長も含めて退職したわけですが、最後の3ヶ月はなかなか厳しいものでした。1月は降雪、2月は新型コロナの対応、そして3月は福島県沖地震で校舎が大きく損傷し、16日以降その対応となり、バタバタしながら気がついたら40年間の教員生活を終えていました。

国語、算数、道徳の授業や幼稚園教育、そして就学指導など、新たに勉強しなければならないことばかりですが、先生方が試行錯誤しながら授業づくりに取り組み子どもたちが真剣に学んでいる姿に接して、一步一步知見を広げ少しでも良い指導助言ができるようになりたいと思っております。

校長先生におかれましては、コロナ禍について難しい対応が続くと思いますが、健康に留意されて職務を全うされることを心から願っております。

4月からは、桑折町教育委員会教育文化課の指導主事として仕事をさせていただいております。

編集後記

今回はご退職なされた先輩方から玉稿を賜り、ありがとうございました。退職後も学校や地域のため、また次世代のリーダー育成のために、それぞれの場所で、日々ご活躍されている姿にとっても勇気をいただきました。今後も新型コロナウイルス感染症対策や拡大の影響による学校経営の判断等、たいへんな日々は続きそうですが、常に前向きに行動していきたいと思っております。皆様におかれましても、「伊達は一つ」の合い言葉の下、今後も連携を大切に進んでいきましょう。(S. M.)